

# 防災対策 & チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

## 家の中の安全対策

防災対策 & チェック

### 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

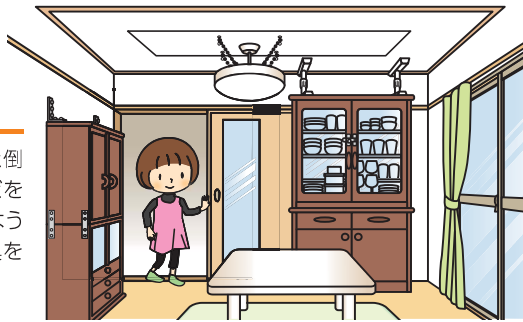
### 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を倒れる方向へは置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



### 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



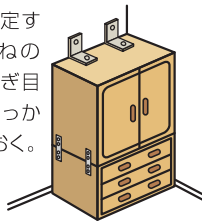
### 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

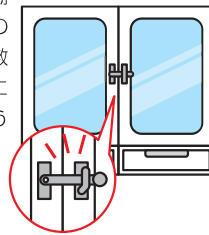
### タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかりと連結しておく。



### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



### 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



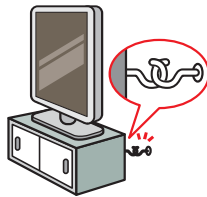
### 冷蔵庫

扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。



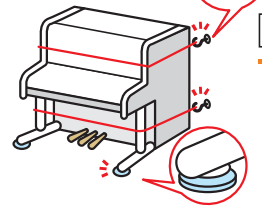
### テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。テレビとテレビ台を固定する。



### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



## 家の周囲の安全対策

### 屋根

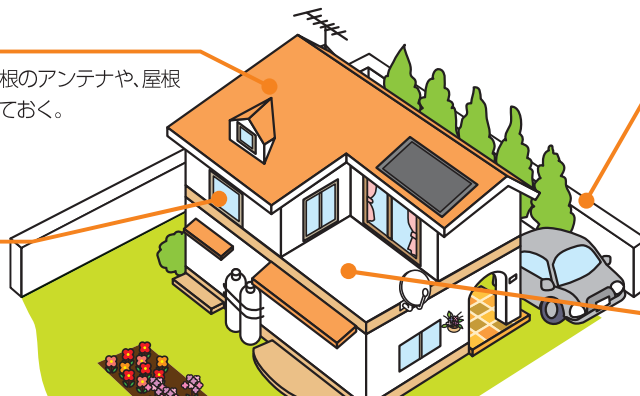
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

### ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

### 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



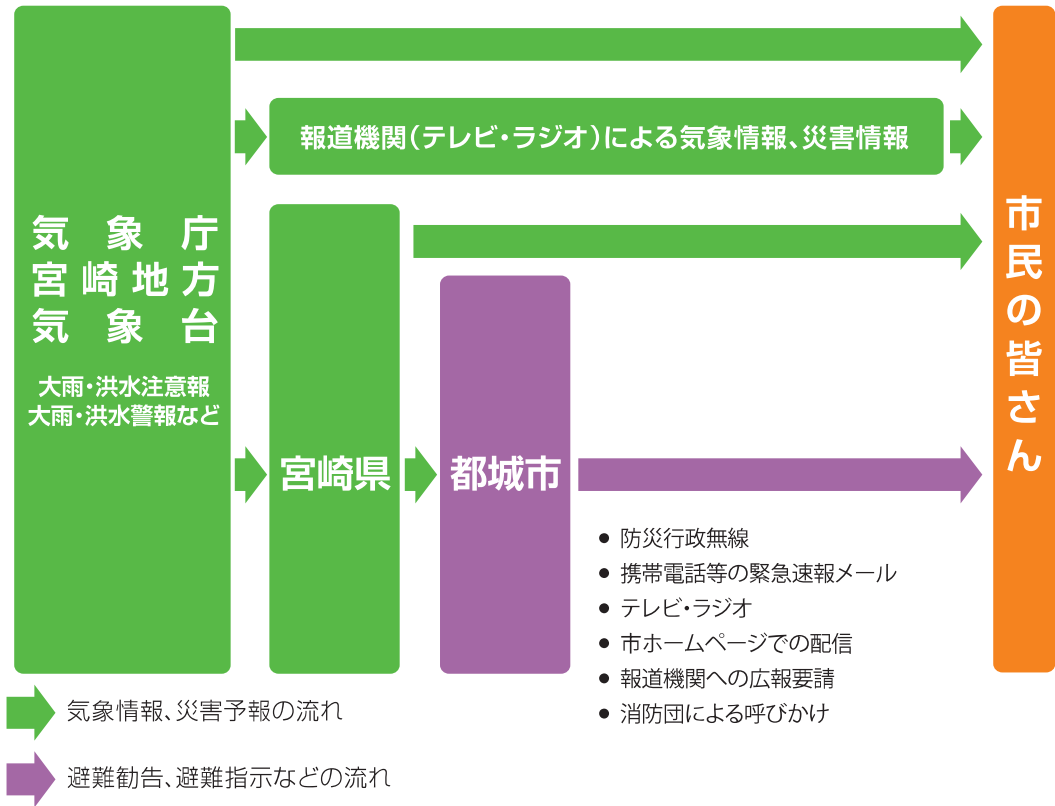
### ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

# 防災対策（市民の皆さんのご協力をお願いします）

## 気象情報・防災情報などの流れ

災害に関する注意報や警報が発表されたら、市からの情報に注意してください。



防災対策

## 災害に備えて

### ●家族で防災会議をしてみましょ

#### 家族で話し合うこと



災害は、いつどこで起こるか予測しがたいものです。災害が起こった時、被害を最小限に食い止めるためには日ごろからの備えが大切です。

万が一に備え、家族の行動、避難所や避難方法、連絡方法などを日ごろから家族でよく話し合っておきましょう。

また、災害に備えて家の中と外をチェックし、危険な場所は早めに改善するようにしましょう。

- 家の中ではどこが安全か。
- 救急医療薬品や消火器などを備えているか。
- 避難するところはどこか、どのような経路を通して避難するか。
- 避難するとき、誰が何を持ち出すのか、非常時持ち出し品はどこに置くか。
- 家族間の連絡方法と最終的に出会う場所はどこにするか。
- 昼の場合と夜の場合の避難の方法はどのようにするか。
- 家族の役割分担はどうするか。
- 地域の防災活動に参加できるかどうか。

# 非常時持ち出し品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。  
事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

## 非常時 備蓄品 (例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

### 飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど

### 非常食品



- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

### 燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

### 工具類



- スコップ
- ノコギリ
- パール
- ペンチ
- ジャッキ
- ロープ

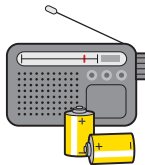
### その他



- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- パケツ・各種アウトドア用品など
- 皿・コップ・はし
- ラップ・アルミホイル・キッチンペーパー・缶切りなど
- 簡易トイレ
- ろうそく・新聞紙・段ボール・布製ガムテープ・着火ライター・マッチ
- スリッパ・長靴
- ほうきとちりとり

## 非常時 持ち出し品 (例)

### 携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

### 救急医療品



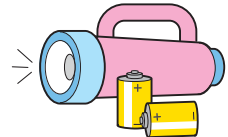
- 常備薬
- 鎮痛剤
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- ばんそうこう
- 持病薬
- マスク

### 貴重品



- 現金
- 印鑑
- 健康保険証
- カード類(コピー)
- 予備のキー
- 預金通帳
- 免許証
- 権利証書

### 懐中電灯



- 懐中電灯(できれば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

### 非常食品等



火を通さずに食べられるもの、食器など

- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 缶切り
- 栓抜き
- 紙皿
- 紙コップ
- 水筒
- アレルギー対応の非常食
- 缶詰
- 軟らかい非常食

### その他



- 衣類(下着・上着など)
- 生理用品
- タオル
- ヘルメット
- ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- 防災マップ(本書)
- ティッシュペーパー
- トイレットペーパー
- ウェットティッシュ
- ナイフ
- 化粧品
- メガネ・予備のコンタクトレンズ
- 入れ歯・補聴器・大人用紙おむつ・補助具の予備
- 障がい者手帳
- ペット用品・ペットフードなど
- 母子手帳
- 離乳食
- 粉ミルク
- 紙おむつ
- 新生児用品・ほ乳瓶・おしりふき・おもちゃ
- カップ
- ライター
- 携帯電話の充電器
- ビニールシート
- ペーパー歯みがき
- 防犯ブザー

## 1週間を想定した工夫と備え

### ローリングストック法で備蓄した非常食を活用

#### ローリングストック法

定期的(1ヶ月に1、2度)に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法です。  
食べながら備えるため、消費期限が短いレトルト食品等も非常食として扱えます。

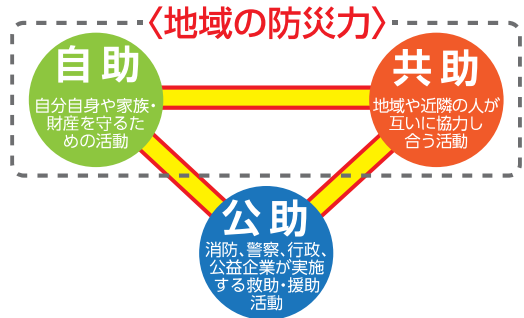
※1週間分の飲料水、また生活用品も備えましょう。飲料水は1人1日3ℓ×家族分の準備を。

## 災害に強い地域をつくりませんか？

### 地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。  
ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人力で災害に備える(自助)とともに、地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」の活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか？



### 1. 自主防災組織とは？

○災害発生時はもちろん、日ごろから地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。

○平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食・給水などの活動を行います。



### 2. なぜ、自主防災組織が必要なの？

○大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。

このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。

より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備(体制づくり)が重要です。

○各班の平常時(日ごろ)と緊急時(災害発生時)の活動内容は概ね次のような役割になります。

	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
<b>平常時</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民に対するの連絡体制、手段の検討</li> <li>○情報収集・伝達訓練の実施</li> <li>○防災意識の啓発、高揚に関する広報</li> <li>○公的防災機関との連携確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初期消火訓練の実施</li> <li>○消火用水の確保、確認</li> <li>○出火防止の啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に避難路、避難場所を把握</li> <li>○避難誘導訓練の実施</li> <li>○避難路の安全点検</li> <li>※危険箇所(かけ、ブロック塀)などの確認等</li> <li>○避難行動要支援者の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○応急手当、衛生知識の普及</li> <li>○救命講習への参加</li> <li>○応急医薬品、救助資機材の確保、点検</li> <li>○技能、ノウハウを持った住民の把握</li> <li>○救助用資機材の点検・確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発</li> <li>○炊き出し訓練の実施</li> <li>○炊き出し用資機材の確保、点検</li> </ul>
<b>緊急時</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達</li> <li>○地域内の被害情報を収集し、本部へ報告</li> <li>○混乱回避、出火防止等の広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初期消火活動</li> <li>※消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本です!!</li> <li>○情報班と連携しての出火防止等の広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報班と連携しての避難の呼びかけ</li> <li>○安全な経路を選択しての避難誘導</li> <li>○避難行動要支援者の避難支援</li> <li>○避難地での安否確認</li> <li>○安否確認による救出救護班への情報伝達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難誘導班と連携しての速やかな救出</li> <li>※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意して下さい。</li> <li>○負傷者の搬送、応急手当の救護</li> <li>○避難所・救護所での救護活動への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料や水、救援物資等の受入、配布</li> <li>○必要に応じて炊き出し</li> </ul>

## 緊急地震速報のながれ



地震発生!



地震計

震源近くの地震計で地震波をキャッチ!



気象庁

震源や規模、予想される揺れの強さ(震度)等を自動計算し、緊急地震速報を発表!



テレビ・ラジオなど

地震による強い揺れが始まる前に素早くお知らせ!

【緊急地震速報のながれ】(気象庁ホームページより)

### 《緊急地震速報》

地震波が2点以上の地震観測点で観測され、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上が予想される地域に発表します。

### 地震発生

1~2分

3分

5分

10分  
数時間

3日

## 地震発生時の時間経過別行動マニュアル

### 最初の大きな揺れは約1分間

- ◆頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する。
- ◆あわてて外へ飛び出さない。
- ◆無理に火を消そうとしない。

### 揺れがおさまったら

- ◆火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火。
- ◆家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認。
- ◆靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく。
- ◆避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意。

### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- ◆隣近所に声をかけよう ◆災害弱者の安全確保 隣近所で助け合う。
- ◆行方不明者はいないか。 ◆ケガ人はいないか。

### 出火防止 初期消火

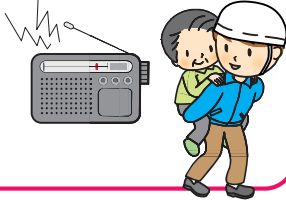
- ◆初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく。
- ◆漏電・ガス漏れに注意。 ◆電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める。
- ◆余震に注意。

### ラジオなどで正しい情報を得る

- ◆大声で知らせる。
- ◆救出・救護を。
- ◆防災機関、自主防災組織の情報を確認。
- ◆デマにまどわされないように。
- ◆避難時に車は極力使用しない。
- ◆電話は緊急連絡を優先する。

### 協力して消火活動、救出・救護活動

- ◆水、食料は蓄えているものでまかなう。 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく。
- ◆災害・被害情報の収集。 ◆無理はやめよう。 ◆助け合いの心が大切。 ◆壊れた家に入らない。



## 屋内にいた場合

### 家中

- ◆小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保しましょう。
- ◆火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- ◆乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- ◆裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

### デパート・スーパー

- ◆カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
- ◆柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。

### 劇場・ホール

- ◆カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
- ◆あわてずに冷静な行動をとる。

### 集合住宅

- ◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- ◆避難にエレベーターは絶対に使わない。
- ◆炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。



## 屋外にいた場合

### 路上

- ◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ◆近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- ◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

### 車を運転中

- ◆ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ◆揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- ◆避難が必要などときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

### 海岸付近

- ◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。
- ◆注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。



### 電車などの車内

- ◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- ◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。
- ◆途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。



1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。  
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

## 初期消火の 3原則

### 1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に助けを求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



### 2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器がない場合は、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

### 3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。

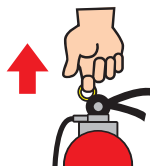


## 《粉末・強化液消火器の場合》

### 消火器の 使い方



ホースをはずして  
火元に向ける。



安全ピンに指をかけ  
上に引き抜く。



レバーを強く握って  
噴射する。

### 消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎に近づき過ぎないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



## 火災 予防

# 火災予防が一番!!

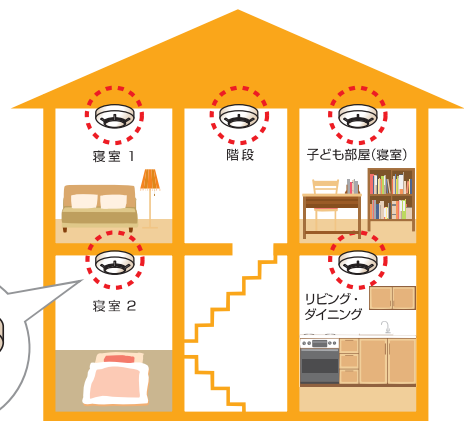
## 住宅用火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

### 火災警報器の設置場所

- 寝 室…すべての寝室(子供部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階 段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台 所…台所への設置もおすすめします。



住宅内取付位置図

# 風水害

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

まずは、確実な情報が大事  
その次に迅速な対応

## 大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

### 大雨注意報・警報・特別警報の発表基準



#### 大雨注意報

大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。

#### 大雨警報

大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。

#### 特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、  
若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧による  
大雨になると予想される場合。

特別警報は大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。

#### 特別警報が発表されたら

#### 非常事態

- ・尋常ではない大雨が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

□避難勧告等に従い直ちに避難所に避難! 外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動  
「住居の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。

## 氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

#### 外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



#### 内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



# 土砂災害

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

## 土砂災害警戒情報とは

「土砂災害警戒情報」は大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、気象台と県が共同して市町村単位で発表し、市町村長が防災活動や避難勧告等の災害応急対応を適時適切に行えるよう支援する制度。

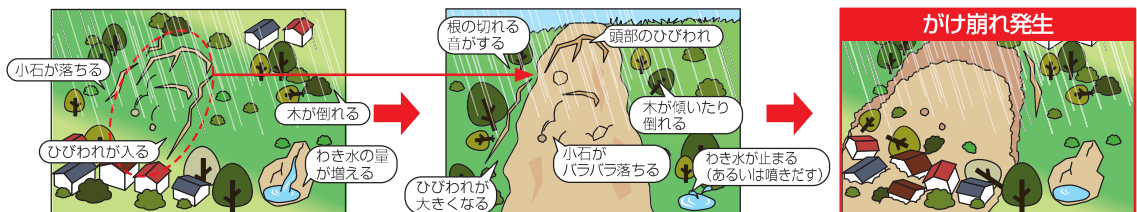
また住民の自主避難の判断等にも利用する情報。

## 土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

### がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



### 土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

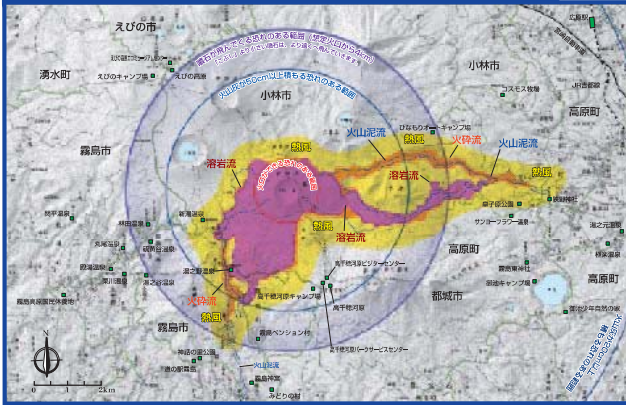


※右記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといえるものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

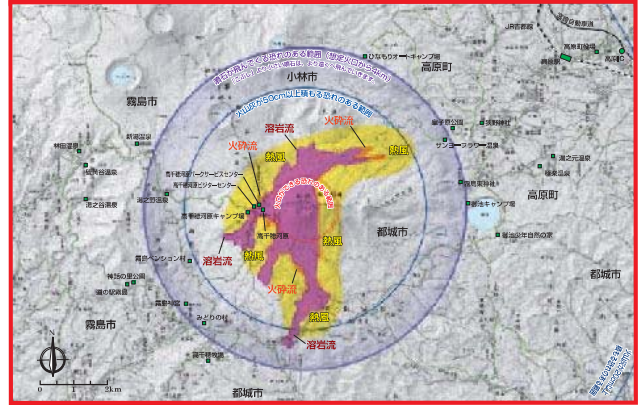


## 規模の大きな噴火が起こった場合の災害区域予測図

### 新燃岳が火口となった場合



### 御鉢が火口となった場合



## 噴火警戒レベル

種別	名称
特別警報	噴火警報 (居住地域) 又は 噴火警報
警報	噴火警報 (火口周辺) 又は 火口周辺警報
予報	噴火予報

対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況
居住地域及びそれより火口側	レベル 5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態と予想される。
	レベル 4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性が高まってきていると予想される。
火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	レベル 3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす (この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ) 噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
火口から少し離れた所までの火口周辺	レベル 2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす (この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ) 噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
火口内等	レベル 1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる (この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。

### ■噴火速報

噴火速報は、気象庁が噴火の発生事実を迅速に発表する情報です。登山中の方や周辺にお住まいの方に、火山が噴火したことを端的にいち早く伝え、身を守る行動を取っていただくために発表します。

## 噴火速報の発表を知るには？

テレビやラジオ、携帯端末などで知ることができます。

事業者が提供するサービス

※平成27年8月時点でサービスを受けられる例



気象庁ホームページ

噴火速報・事業者によるサービス一覧



平成27年8月から公開

今後サービスの提供を開始する事業者については、気象庁ホームページでご確認いただけます。

Yahoo! JAPANが提供するサービス

- Yahoo!防災速報 (スマートフォンアプリ、メール)
- Yahoo!ニュースアスリ (スマートフォン)
- Yahoo! JAPANアスリ (スマートフォン)
- Yahoo! JAPAN トップページ (PC、スマートフォン、携帯端末)

Yahoo!防災速報

日本気象株式会社 が提供するサービス

- お天気ナビゲータ (スマートフォン、携帯、PC、メール)
- 噴火速報アラート (スマートフォンアプリ)

※天気ナビゲータ噴火速報

# 避難情報

市では、皆さんの生命に危険が及ぶと判断した場合、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示(緊急)」を発令し、避難を促します。避難勧告などを発令するときは、さまざまな状況を総合的に判断して発令します。

## 大雨のとき

### 大雨のときの避難行動

避難は災害から命を守るための行動です。大雨による災害から身を守る避難行動は、従来、避難勧告等の発令時に往う避難所への避難が一般的でしたが、今後は次のすべての行動を避難行動とします。

指定避難所  
への移動

警戒区域等内の自宅などから  
移動し、安全な場所への避難  
(公園、親戚や友人の家等)

近隣の強固で  
高い建物等へ  
の移動

建物内の安全な場所での待避  
(家屋内の垂直避難)

やむを得ず、家屋内に留まった場合、安全を確保する避難行動として、洪水対策では建物の2階以上高いところへ、土砂災害対策には斜面と反対方向の高い階への移動が有効です。

### 屋外が安全で移動できる状態のとき

### 屋外が危険な状態などのとき

※特に、河川氾濫の浸水想定区域や土砂災害警戒区域にお住まいの方は、皆さんが早め早めに判断をして、「危ない」と思ったら、ただちに危険な区域から離れる。自主避難をすることが命を守ることとなります。

## 避難

情報の種類	発令時の状況	市民に求める行動
(1) 自主避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害の危険が迫っていると自ら判断した場合の避難となります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて地域の安全な場所に避難してください。</li> <li>避難中の食料や生活必需品はご自分で用意してください。</li> </ul> 
(2) 避難準備・ 高齢者等 避難開始	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難するのに時間を要する要配慮者等は、避難を始めなければならない状況です。</li> <li>災害による人的被害が発生する可能性が高まっている状況です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児をお連れの方等)とその人を支援する人は避難を開始しましょう。</li> <li>いつでも避難ができるよう準備をしましょう。身の危険を感じる人は、避難を開始しましょう。</li> </ul> 
(3) 避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常の避難ができる方についても避難を始めなければならない状況です。</li> <li>災害による人的被害が発生する可能性がさらに高まっている状況です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所や安全な場所・建物へ速やかに避難を始めてください。</li> <li>避難勧告のときも食料と非常持ち出し品を持って、避難しましょう。</li> </ul> 
(4) 避難指示 (緊急)	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害の前兆現象の発生や切迫した状況から、人的被害が発生する可能性が非常に高まっている状況、または実際に人的被害が発生した状況です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難中の人は確実に避難を完了してください。</li> <li>いまだに避難していない人は、直ちに避難所へ避難を始めてください。</li> <li>避難の時間的な余裕がない場合は自ら考え生命を守る最低限の行動をとってください。</li> <li>山の斜面の反対側、家の2階以上、近所の安全な場所へ避難してください。</li> </ul> 

※危険性が高い場合、いきなり「避難指示」が発令されることもあります。